

公園緑地等管理委託仕様書

第1章 総則

1 適用の範囲

本仕様書は、公園緑地等管理委託に適用する。それぞれの工種に応じ、本仕様書に定める仕様内容に従い履行すること。

2 一般事項

本仕様書は、業務の実施に必要な事項について定めるものとし、本仕様書、契約書、設計図書及び土木工事共通仕様書に明記されていない事項であっても作業の性質上、危険防止措置等の作業に必要な業務については、受注者の責任において行うこと。なお、仕様について、本仕様書と特記仕様書の記載の異なるときには、各特記仕様書を優先する。

3 法令等の遵守

- (1) 業務の遂行にあたっては、関係諸法令等を遵守しなければならない。
- (2) 業務の円滑な推進を図るため、諸法令の運用適用は、受注者の負担と責任において行わなければならない。

4 官公署等への手続き

- (1) 業務に必要な関係官公署等への諸手続きは、受注者において速やかに処理しなければならない。この場合、これらの諸手続きに要する費用は、受注者の負担とする。
- (2) 業務に関して関係官公署等と交渉を要するとき、又は交渉を受けたときは、速やかに市監督員に報告しなければならない。

5 周辺住民への対応

- (1) 受注者は、現場の作業に先立ち、市監督員との調整の上、周辺住民に業務の内容を説明し、理解と協力を求め、業務の円滑な進捗を図ること。
- (2) 受注者は、業務に関し、周辺住民から要望などがあつたとき、又は交渉を要するときには、速やかに市監督員に連絡し、誠意をもって解決を図るとともに、その経緯について遅滞なく報告すること。

6 軽微な変更

受注者は、現場の状況などにより、作業内容を変更するなどの軽微な変更は、事前に市監督員と協議の上、作業を行うこと。

7 提出書類

- (1) 受注者は、契約書に示してある書類を提出すること。また、原則として業務実施前までに次の事項について提出すること。
 - ア 緊急時の体制
 - イ その他市監督員の指示のある必要事項

- (2) 受注者は、契約約款第15条「履行報告」について以下のとおり提出すること。また、提出資料の内、刈り込み面積と除草面積に関するものについては、今後施工対象区間の標準資料として用いること。

ア 提出時期

委託業務のうち、10月の月末時点において完了した業務内容について履行報告する。

イ 提出内容

完了した業務について、出来形数量調書及び出来形数量集計表を提出する。また、刈り込み面積と除草面積については、出来形数量内訳及び数量根拠資料（面積計算書など）を追加で提出する。

8 現場体制

- (1) 受注者は、技術及び経験を有する代理人を現場に常駐させ、所定の業務に従事させること。
(2) 受注者は、適正な作業の推進を図るために十分な数の作業員を配置し、熟練を要する作業には相当の経験を有するものを配置しなければならない。また、資格を要する機械を用いて行う作業については、有資格者がこれを扱うこと。

9 業務標示板等の設置

- (1) 受注者は、業務内容を示す標示板、その他作業現場に必要な注意看板などを、公園緑地等利用者などが見やすい位置に設置すること。
(2) 業務標示板については、原則として以下に示す項目を明記すること。

ア 委託名

イ 発注部署及び連絡先

ウ 受注者及び連絡先

10 後片付け及び確認

受注者は、業務委託の作業終了後、速やかに現場の後片付けを行い、入念な清掃を行った後作業範囲及び進入出経路において、忘れ物、清掃の残し、樹上のかかり枝や移動させた施設の復旧忘れ等がないか確認を行うこと。

11 相互協力

受注者は、業務箇所が他の工事や業務と近接又は同一場所となった場合においては、常に相互協力を努めること。

12 工程管理及び休日における作業

- (1) 受注者は、工程表に基づき適正な進捗管理に努めることとし、週間工程表にて業務実施予定及び実績報告すること。（なお、除草または刈込作業については、6月から8月までの間に必ず着手すること）
週間工程表は、実施予定及び実績を記載することとし、予定については前週までに、実績については翌週中に、市監督員に電子メールまたはFAXで提出すること。
なお、実績報告において、剪定及び伐採を実施した場合は、工種、数量を記載すること。
(2) 業務実施の都合上休日（土曜日、日曜日及び祝日）に作業を行う必要がある場合は、予め関係者及び市監督員にその旨を報告すること。
(3) 緑道の除草及び刈り込みについては、監督員と協議の上、施工時期、施工区間及び受注者名を

記したものを、緑道内に掲示すること。また掲示物は作業後撤去すること。

13 安全訓練等の実施について

- (1) 受注者は、本業務に際し、現場に即した安全・訓練等について業務期間内に安全教育を実施すること。
- (2) 安全訓練等の実施状況報告
受注者は、安全・訓練等の実施状況を写真等で撮影し、実施記録を 19(1) の通り提出すること。

14 利用者の安全確保

- (1) 受注者は、利用者の安全確保を徹底しなければならない。
- (2) 作業中及び作業終了時においては、公園緑地等を常に良好な状態にしなければならない。

15 保安設備の設置及び現場管理

- (1) 作業中の安全対策にあつては、現場環境に対応した十分な保安設備を施すこと。
- (2) 現場内の整理整頓及びその他現場管理には細心の注意を払うこと。
- (3) 現場内の作業用車両の通行については、十分な注意を行うこと。
- (4) 受注者が、市監督員の指示に反して作業を続行した場合には、作業の一時中止を命ずることができる。
- (5) 作業等において、一般交通の支障となる場合は、必要に応じ交通誘導警備員を配置し、安全対策に努めること。交通誘導警備員の配置に際しては、法令に則り、事前に市監督員の承諾を得ること。

16 作業員の安全管理

- (1) 作業中は、ヘルメットの着用や高所ではフルハーネス型の墜落制止用器具を着用するなど、十分な事故の防止及び作業員の安全を図ること。
- (2) 作業に使用する機材は、常に点検し、安全な整備をしておくこと。
- (3) 労働安全衛生法に準拠し、十分な事故の防止及び安全の徹底を図ること。
- (4) 万一事故が発生したときは、緊急連絡体制に従い、直ちに市監督員及び関係各官公庁に報告するとともに、速やかに必要な措置をとること。

17 損害賠償及び補償

- (1) 受注者は、工作物等に損傷を与えた場合は、直ちに市監督員に報告し、速やかに原形に復旧しなければならない。
- (2) 受注者は、作業に当たり万一注意義務を怠ったことにより、第三者に損害を与えたときは、その復旧及び賠償の全責任を負うこと。

18 発生材の処分

- (1) 受注者は、現場での発生材を現地に存置することなく、作業の都度搬出し、適正に処分すること。
ただし、あらかじめ市監督員の確認を得たものについては、この限りではない。
- (2) 草等の発生材の処分方法については、一般廃棄物として相模原市一般廃棄物処理施設の設置に関する条例（昭和 37 年 3 月 31 日 条例第 5 号）第 2 条に掲げる清掃工場への搬入処分を原則とする。

- (3) 伐採等による枝葉及び幹等の現場発生物の処分は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）に基づき、原則、株式会社リテック座間工場（神奈川県座間市小松原1丁目18-31）へ搬入すること。

ただし、これによらない場合は監督員と協議すること。

また、広葉樹の幹処分については、「さがみはら森林ビジョン」に基づき、樹木の有効活用を推進することとしており、幹直径25cm以上のものは活用の可能性があることから、市監督員と協議の上で、運搬先等を決定すること。

19 施工計画書の簡素化について

- (1) 施工計画書の記載事項は以下のものとする。

- ① 計画工程表
- ② 安全管理 安全衛生管理計画（組織表のみ）
- ③ 緊急時の体制及び対応

20 業務委託の完了

- (1) 受注者は、検査にあたり業務契約書を提示するほか、原則として以下の書類を業務の内容に応じて作成し、業務完了時に電子データで提出すること。なお、提出するフォーマットはPDF、電子媒体はCD-R または DVD-R とし、報告書（ア～シ）と写真（ス）に分けて各1部ずつ提出すること。

ア 業務完了届（工事請負契約書等様式集「業務完了届」）

イ 出来形数量調書（総数量）

ウ 出来形集計表（総数量）

エ 出来形数量内訳及び数量根拠資料

オ 発生材処分伝票及び集計表

カ 砂場の砂補充伝票と品質証明（試験表も可）

キ 交通誘導員伝票及び日報

ク 安全訓練等の記録

ケ 各種申請書及び許可証

コ 実施工程表及び作業日報

サ 打合せ簿

シ その他市監督員が必要と認めた書類

なお、必ず工期内に提出すること。

ス 委託写真（電子納品）：『電子納品に関する特記仕様書』

- (2) 受注者は、検査に必要な図書などについて、市監督員又は検査員の指示に従わなければならない。

- (3) 検査は、受注者の提出した委託写真、業務出来形に基づいて行うが、万一不完全な箇所があった場合には、再度業務を行うこと。

なお、これに要する費用はすべて受注者の負担とする。

21 環境配慮

- (1) 受注者は、「相模原市環境方針」（URL：<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/1026489/kankyo/1026506/plan/1008054.html>）の主旨を理解し、業務を行うこと。
- (2) 市への提出書類及び添付書類については、原則として再生紙を使用すること。

- (3) 業務実施時に車両を使用する場合は、アイドリングストップの実施を徹底し、第三者に運搬等を委託する場合においても、アイドリングストップの実施を周知するよう努めること。
- (4) 業務の実施においては、廃棄物の減量化・資源化に取り組むとともに、廃棄物の処理にあたっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等、関連法令等を遵守し適正に処理すること。

第2章 業務

1 一般事項

- (1) 作業にあたっては、作業の目的及び影響等を十分理解して、対象となる植物の性質や生育状況などを考慮し、生きものとしての植物に対する細心の注意と愛情を持って作業を行い、その目的を達するように努めること。
- (2) 設計図書に記載されている業務については、着手時に現場確認及び市監督員との立会いにより、範囲等について相互に確認を行うこと。

2 除草

(1) 一般事項

除草時期については、草木の発育状況等により市監督員との協議により適正な時期に実施すること。

(2) 人力除草（抜根）

- ア 除草フォークなどを用いて根ごと取り除くこと。
- イ 既存植物、構造物等を傷めないように注意すること。
- ウ 既存植物や構造物等から
 んでいるつる性雑草もきれいに除去すること。
- エ 低木等の刈り込み作業を同時に行う場合は、先に人力除草（伐根）を行うこと。
- オ 刈草は、速やかに集積して搬出すること。
- カ 作業後は清掃を行うと共に、作業箇所をきれいに整地すること。

(3) 人力除草

- ア 刈込器具は鎌などを用いること。
- イ 既存植物、構造物等を傷めないよう注意し、均一に刈り取ること。
- ウ 既存植物や構造物等から
 んでいるつる性雑草もきれいに除去すること。
- エ 低木等の刈り込み作業を同時に行う場合は、先に人力除草を行うこと。
- オ 刈草は、速やかに集積して搬出すること。
- カ 作業後は清掃を行うと共に、作業箇所をきれいに整地すること。

(4) 機械除草（肩掛式）

- ア 既存植物、構造物等を傷めないよう注意し、均一に刈り取ること。
- イ 既存植物、構造物等の周辺も刈り残しや刈りむらのないように仕上げる。また、それらから
 んでいるつる性雑草もきれいに除去すること。
- ウ 作業前に小石やごみなどを除去し、周囲に飛散しないようにすること。また、小石などの跳ね飛ばしや刈草の吹き出し方向に注意し、状況によりシートや板等で養生すること。
- エ 保護メガネ等の保護具を着用して作業すること。
- オ 低木等の刈り込み作業を同時に行う場合は、先に機械除草を行うこと。

カ 刈草は、速やかに集積して搬出すること。

キ 作業後は清掃を行うと共に、作業箇所をきれいに整地すること。

※機械除草については、刈払機の使用に関する特記仕様書を参考とすること。

(5) 除草剤

ア 除草剤の散布は原則認めない。

3 刈り込み

(1) 整形美(※1)を考慮し、単植、寄植、生垣等それぞれの植栽形態に応じて整形に刈り込むこと。

(2) 樹木の生育状況、景観、都市機能、交通安全、周囲の環境に配慮すること。特に民家側に「目隠し」として植栽してあるものは、十分に配慮すること。

(3) 対象樹種の性質を理解した上、適切な時期と方法により実施すること。

(4) 花木の場合は、花芽分化時期と着生位置に留意すること。

(5) 利用者に危害が加わるような鋭利な切断面が残らないよう、切り戻しなどの適切な処置をとること。

※1 整形美とは、植物を健康に保ちながら、特定の形や配置に整えることで、景観の美しさを追求すること。

4 剪定

(1) 対象樹木の特性を理解し、対象樹木に応じて適切な時期と方法を用いて、整形美を考慮しながら実施すること。

(2) 枝の切除は枝の分岐部又は芽の真上で行うこと。また、枝の付け根の枝組織と幹組織が混じり合っているカラーと呼ばれる部分を傷付けないよう、バークリッジを残して、カラーにできる限り近く正しい位置と角度により剪定すること。

(3) 良く切れる鋏や鋸等を使用し、切断面は滑らかに仕上げること。

(4) 枝の途中又は極端に細い枝を残して太枝を切るような「ぶつ切り」は行わないこと。

(5) 太枝を切除する場合は、枝の自重で切り口の付け根から裂けることを防ぐために、切断予定箇所の数十センチ上の部分をあらかじめ切除し、枝先の重量を軽くした上で切り返しを行う「二段切り」を行うこと。また、このとき枝の下面に切れ込みを入れておき、皮剥けを防ぐこと。

(6) 剪定すべき枝

ア 枯れ枝や折れて落下する恐れのある枝、建築限界を侵して人や車に接触する恐れのある低い枝(危険枝)

イ 架線に近接している枝や照明灯等を隠す枝

ウ 民有地へ越境する枝

エ 歩行者や車両における通行の視界を妨げる枝(支障枝)

オ 病虫害に侵され、治癒や駆除ができない枝(病虫害枝)

カ 樹冠、樹形の維持や樹冠内の通風や採光の支障となっており生育上不必要な枝、逆さ枝、からみ枝、平行枝、胴吹き枝、徒長枝、立枝、ふところ枝、ヤゴ等の不要枝

(7) 病害枝の剪定に使用した機械器具の取扱い

病害枝の剪除作業等において、樹木の病原菌に侵された部位に使用した器具は、使用後直ちに付着物を拭き取り、アルコール等を湿らした布等で殺菌を行い、乾かしてから使用すること。

5 伐採

(1) 一般事項

ア 作業にあたっては、周辺樹木、施設、民家等を損傷しないよう、必要に応じて養生を行い注意深く行うこと。

イ 切断は地際部又はそれより低い位置で行い、切り株を地面より露出させないように処理すること。ただし、別に市監督員指示があった場合は、その指示に従うこと。

ウ 抜根を行った場合は、直ちに良質客土をもって埋戻し整地を行い、危険のないよう処理すること。

エ チェーンソーによる伐木作業等を行う場合は、下肢の切創防止用保護衣を着用すること。

(2) 伐採

常緑樹、針葉樹、落葉樹の生木について適用する。

(3) 枯損木伐採

枯木に適用する。

6 芝生管理

(1) 刈り込み前に、小石、ゴミなどを取り除く。

(2) 芝刈機械で均一に刈り込み、剪除した茎葉は速やかに処分する。

(3) 樹木の根際、構造物周りなどについては、手刈りとする。

7 ハチの巣撤去

(1) ハチの中でも攻撃性が強く危険性が高い、スズメバチによる刺傷被害を減らすため、その巣を駆除する。

(2) 市監督員から指示を受けたスズメバチの巣を迅速に駆除すること。なお、駆除の指示を受けていない巣を付近で発見した場合は、市監督員へ報告し、駆除すること。

8 砂場の砂補充

施設点検を行う際に、砂場の砂が少ない状況を発見した場合、市監督員へ報告し、市監督員の指示のもと作業を行うこと。

(1) 砂補充の目安としては、砂場枠(砂場縁)上面から砂面との段差を 220mm 以下、深さは 200mm 以上とする(遊具の安全に関する規準 JPFA-SP-S:2024 を参照)。

(2) 使用する材料は、細目砂とし、試験表を提出すること。砂場の特性上、海砂は不可とする。

(3) 砂の入れ替え作業の方法については、市監督員と協議すること。

(4) 砂の入れ替え前に不純物が無いことを確認した上で砂の入れ替え作業を行うこと。

9 マス清掃

(1) 施設点検等を行う際に、土等が堆積し排水がされていない等、機能不全のマスを発見した場合、監督員へ報告し、土等の撤去を行うこと。発生土は公園内(特に植込地周辺等)に敷き均すこと。

(2) 清掃したマスに管が接続されていた場合で、さらに管の詰まりが確認できたときは、市監督員に報告し、管の清掃方法について市監督員と協議すること。

10 軽微な作業

- (1) 工期中に発生した市民等からの簡易的な通報及び要望対応等（公園緑地利用者の安全を確保するための立ち入り禁止措置及び簡易的な清掃、落ち枝拾い、危険要素となる簡易的な撤去作業等）

第3章 その他

1 疑義事項

- (1) 本仕様書に明記されていない事項及び業務の詳細については、市監督員の指示に従わなければならない。
- (2) 内容に疑義が生じた場合は、直ちに市監督員へ連絡し、指示を受けること。